

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H27.11.20	市政懇談会 (H27)	小山田	東和総合支所	東和総合支所地域振興課	旧小山田小学校跡地について①	旧小山田小学校跡地の活用について市の考えを伺う。	平成23年の東和小学校への統合に伴い、小山田小学校を含めて6小学校が空き校舎となり、それぞれの地域で検討委員会を立ち上げ、校舎活用について検討してきた。 小山田小学校については、明日の小山田を考える会と協議を重ね東和地域で一番古い校舎でもあることから取り壊しをすることで合意し、平成24年から25年にかけて解体工事が実施された。跡地活用について、市では具体的な活用策を持ちあわせていないというのが現状であることから、地域の意向を伺いながら地域と一緒に跡地活用を図ってきたい。
2	H27.11.20	市政懇談会 (H27)	小山田	総合政策部 財務部 東和総合支所教育部	防災危機管理課 地域づくり課 契約管財課 東和総合支所地域振興課 こども課	旧小山田小学校跡地について②	本日の会場となっている小山田振興センターも老朽化している。さらに、避難場所に指定されているが敷地の後ろに崖が迫っており大雨が降ると水が敷地内に流れ込んでくるような場所である。保育所も隣接しており避難場所として妥当なのかという意見もある。 旧小山田小学校跡地は道路が四方から通っている、平坦で広い場所であることから振興センターと保育所と一緒に旧小山田小学校跡地に移転した方がいいのではないかと。	現在の保育所の場所に小山田役場があり隣接して小山田農協があった。小山田の中心地ということ踏まえて、現在の場所に振興センターの建物である東和高齢者コミュニティセンターが建設された。昭和58年度建築なのでまだ使えるだろうという判断はできると思う。また、地盤は地震にも強い岩盤である。駐車場の不足などの課題はあるが、基本的には現状では使えるくらいは使うべきと考えている。様々な考え方があると思うので多くの意見をだしていただき有効活用を考えていきたい。 昨年から工事を始めた湯口中学校の改築、来年に予定している大迫中学校の移転新築や給食施設整備に合せて約43億円のお金がかかる。また、振興センターについては、現在、谷内振興センターを建設することになっているが、他の地域からの要望もある。現在、花巻市では公共施設の管理計画策定に着手しはじめた。これは長期的な視点をもって、公共施設の、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うもので、その中で市全体の公共施設の維持管理にどれくらいの費用が必要か把握できることになっており、そのうえで公共施設の新築や改築が可能か判断する状況になる。現在の場所が振興センターの立地場所として課題があるのは認識しているが、今、振興センターを新築するあるいは計画をたてるという状況ではない。
3	H27.11.20	市政懇談会 (H27)	小山田	健康福祉部教育部	地域福祉課 小中学校課	子どものいじめと児童虐待について	花巻市における子どものいじめと児童虐待の実態をお聞きする。	文部科学省が行った平成26年度の問題行動調査で、花巻市内小中学校におけるいじめの認知件数は小学校11件、中学校9件、合計20件。国で発表した児童生徒1,000人当たりの発生件数は全国平均13.7、県平均13.0、花巻市は2.6で、全国あるいは県平均を大きく下回っている。また、重大な事案も昨年度の調査では発生していない。いじめの内容で一番多いのは、ひやかし、からかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われたというのが10件、次いで仲間はずれ、集団により無視をされるが6件、軽くぶつけられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、けられたりが5件。(複数回答のため20件を超えている)市においても国の法律に基づき、いじめ防止等のための基本的な方針を策定し、いじめについて調査をしている。いじめは、いつでも、どこでも起こりうるものと考えており、事案が起きたときには直ちに教育委員会に報告するように学校に徹底しているところであり、未然防止のための早期発見、早期解決に取り組んでいる状況である。 児童虐待の状況について、平成26年度の花巻市における児童に関する相談件数は211件。その中で児童虐待に関する相談は40件。児童虐待には身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待の4つの種類があり、種類別の相談件数は、身体的虐待20件、ネグレクト9件、心理的虐待11件、性的虐待は0件。また、虐待に関する相談件数は平成25年度に比較して15件の増となっている。 身体的虐待については大きな怪我や重篤なケースではなかったが、1件について一時保護の措置を行った。 なお、児童虐待への対応として、福祉事務所に家庭児童相談室を設置し、家庭相談員2名が対応にあたっている。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H27.11.20	市政懇談会 (H27)	小山田	教育部	文化財課	国指定天然記念物カズグリ (栗)の保存について	国から天然記念物として指定されているカズグリ(栗)が私どもの地元 (石鳩岡)に自生している。全国に長野県と東和町にあるということを言 われていたが、長野県のカズグリは枯れてしまったということで全国唯 一ここにしかない。 普段は地元の保存会、管理組合で管理しているが、木の枝がくっつい て枯れ始めているところがあるので花巻市文化財保護審議会の大森先 生にみていただいたところ、枝切りもさることながら、つぎ木した若木の5 本のうち2本を柵の外にだして若木同志干渉しないようにしたらしいの ではないかというご意見を頂戴した。 つぎ木した若木のうち枝が混んでいるところは若木同志が干渉しないよ うに、柵の外にだしたらしいのではないかとというご意見を頂戴した。 教育委員会の職員の方にお話をしたが、予算があるわけではないし、 文化庁へ移植の許可申請も必要。国の天然記念物なので枯らしては大 変だと思っているので宜しく願いたい。	初めてお聞きしたので文化財課担当から状況を聞き教育委員会で検討 する。 → 11月13日、文化財保護審議会大森委員より「カズグリは天然記念 物であるため文化庁への手続きが必要であるが、繁茂した枝の選定に ついては、現状変更にあたらないので進めてもよいこと。若木の移植に ついては届出が必要となるので時間を要すること。」との意見を伺った。 教育委員会としては今後、移植方法や移植時期について樹木医や樹 木移植の専門家からご意見を伺いなら対応を検討する。
5	H27.11.20	市政懇談会 (H27)	小山田	東和総合支所 消防本部	東和総合支所地 域振興課 消防本部総務課	婦人消防協力隊について	婦人消防協力隊は同じ方が何度も隊員になっている。これは地域の嫁 不足等により隊員のなり手が限られていることからこのような状況に なったと思われる。この方たちの負担や婦人消防協力隊の実態をみる と、婦人消防協力隊は不要と思う。	東和地域では婦人消防協力隊に活躍いただいているが、現状的には おっしゃるとおり高齢化により若い人が入りづらいというのが現状。婦人 消防協力隊には火防点検などにも協力をいただけており、台所などは 女性の視点から点検していただいている。また、有事の際の炊き出しな ど女性の力は大切である。 現在まで継続してきた女性の協力隊であることから今すぐになくすこ とにはならないと思うが、無理をして割り当てるようにする必要はないとい うことは言っている。できる範囲内で願いたい。
6	H27.11.20	市政懇談会 (H27)	小山田	大迫総合支所 教育部	大迫総合支所地 域振興課 教育企画課	県立高校再編計画における 大迫高校について	県立高校再編計画における大迫高校について、現在の状況をお聞きし たい。	大迫地域は地理的に子どもたちが花巻や石鳥谷の学校に通うために は保護者が送迎しないと難しい。そのような状況から1クラスしかない学 校だが存続するよう岩手県教育委員会にお話している。 以前、岩手県教育委員会では2クラスに満たない学校については統合 または分校化するという方針であったが、今は大迫高校のように通学が 難しい学校については1クラスでも残す考え方に傾いてきている。ただ 従前の計画では、1クラスであっても生徒数が20人に満たない年度が2 年間続いた場合には統合するというのが県教育委員会の考えであっ た。その観点からすると今年は1年生が32人入ったが、今後も生徒数を 確保することが肝心となる。このことから、大迫や東和も含めた他の地 域の方々に協力をいただき少なくとも生徒数20人を確保していくことが 大事になってくる。 花巻市では通学に係る補助を拡充するとともに、ベルンドルフへの派遣 や早池峰神楽の伝承など特色ある学校づくりに支援している。
7	H27.11.20	市政懇談会 (H27)	小山田	健康福祉部	健康づくり課	大迫の地域医療について	高次救急で中部病院に入院された患者が安定した場合、総合花巻病 院や東和病院などに転院ということになるが、大迫の地域診療センター には入院ベッドがない。容体が安定し総合花巻病院に戻ってきたと言っ ても、現状は家族が面会に行きたくても毎日のように大迫から花巻や東 和まで通うことは大変なことである。岩手県に強く要望しても無床化し たベッドは戻らないのか。	大迫地域診療センターについては、平成19年4月に入院病床を19床と する診療所化が実施され、さらには平成21年4月に診療所の無床化が 実施されている。 入院患者の受け入れには最低でも常勤医師3名とバックアップ用非常 勤医師が必要。大迫地域診療センターの現状は常勤医師2名で、うち1 人は高齢の方であり、岩手県の医療局は医師の増員については考えて いないと思う。 県医療局の計画によると、赤字の病院は統合したいという考えである が、赤字が多い県立病院の中で、東和病院は中部病院や中央病院とと もに黒字が続いていた。平成26年度は赤字となったが金額が少ないこ と、東和地域だけではなく大迫、宮守、矢沢地区の方々からも利用され 頼りにされている病院である。 以上のことから、大迫地域診療センターの通院機能及び東和病院の存 続に注力していく。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H27.11.26	市政懇談会 (H27)	花北	建設部	道路課	市道四日町後川線道路整備事業について	市道四日町後川線道路整備事業について①道路幅員および制限速度、交差点の一時停止箇所②後川の今後の想定水量予測と完全閉鎖した時の安全対策③道拡幅による家屋立ち退き時期④四日町後川線と県道花巻停車場線交差点の十字路⑤進捗状況及び今後の計画についてお聞きしたい。	①現在、測量を実施し、事業全体で695mのうち375mが設計に入っており、道路全幅員は基本的に歩道を含め8.5mとし、住宅等広げることのできない場合は6mの計画としている。道路制限速度と交差点の一時停止等の交通規制については、道路状況を見た上で警察と協議を進めていく。②水路を設置し、管理用として等間隔にグレーチング蓋を設置していく。安全対策としては、後川水路の上流に位置する「アルテさん」の駐車場の南側を流れる排水の一部を、桜台2丁目の県道北上花巻温泉自転車道路の付近から、準用河川後川に分水(ショートカット)し、現在の流量の約半分を流すことを計画していたが、その安全面と後川水路の県道横断やその下流の状況などから検討中である。なお、一般的に準用河川は1/5年確率で行うが、後川排水路については1/10年確率で考えている。③家屋の立ち退きについては、現在計画中であり、計画が決まり次第地域の方々と花北地区コミュニティ会議にも説明したいと考えている。④十字交差点の計画については、正形な十字交差点にした場合、住家の移転補償等に莫大な経費が掛かることから、現況とほぼ同じ位置の計画としている。⑤今後は、なるべく早く事業を進めたいが、国の補助金が厳しくなっている。現時点で、明言できないが努力して進めていきたい。 市では、道路整備については国の補助金を活用しており、国に対して積極的に要望活動をしているが、国では、震災復興や中南海地震に備えるための予算もあることから厳しい状況である。
2	H27.11.26	市政懇談会 (H27)	花北	生涯学習部	生涯学習交流課	生涯学習事業のコミュニティ会議への事業移管について	生涯学習事業についてコミュニティ会議へ事業移管するというご説明があったが、なぜ事業をコミュニティに移管するのか。将来的に市としてはどういった方向性を考えているのか。また、どういった支援策をしていたのかをお聞きしたい。	市では地域の振興センター単位で行われる生涯学習事業は、地域の活性化、地域づくりの為の事業という位置づけが非常に強いと考えている。その中で、コミュニティ会議が主催する事業も定着してきている状況にあると思っており、地域に密着し地域状況を踏まえた自由度の高い事業を展開していただける可能性が高いと考えている。また、地域の行事と連携を図るような形でより地元に着実に効率的、効果的な事業の企画運営に繋げていただくことを期待している。今後も、花巻地域ではまなび学園、各総合支所においても、引き続き、事業を実施していく。振興センター内で実施する生涯学習事業については地域の活性化、地域づくりの為にコミュニティ主催で引き続き企画して実施していただきたい。コミュニティが主催する事業の支援策については、28年度は今年度の事業実績をベースとして生涯学習にかかる経費の相当額を各コミュニティに交付することとしたい。29年度以降については、地域づくり交付金の中で対応していただきたいと考えている。
3	H27.11.26	市政懇談会 (H27)	花北	生涯学習部	生涯学習交流課	生涯学習事業について	現在、生涯学習事業はコミュニティ会議と市が実施している事業で、類似している事業もあることから、事業を整理したほうが良いと思う。また、コミュニティが生涯学習事業を実施する場合に、一番苦慮することが講師の選定であることから市からの支援をお願いしたい。	類似性がある事業については、整理検討していきたい。講師の依頼についても相談いただければ支援する。よろしく願いたい。
4	H27.11.26	市政懇談会 (H27)	花北	建設部	道路課	除雪について	駅前の藤木神社通りから、愛宕町への階段だが、市の除雪体制はどのようなになっているのか。また、除雪後は滑りやすいためできれば坂の途中に砂や融雪剤を配置していただきたい。	以前に、コミュニティより同様の意見があったため現地確認したが、機械では除雪できないため人力での除雪を行っている。砂や融雪剤については、配置する。なお、散布にあたっては地域の協力もよろしく願いたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
5	H27.11.26	市政懇談会 (H27)	花北	総合政策部 建設部	秘書政策課 都市再生室	今後のまちづくりについて	11/1に開催された地域づくりフォーラムの講話、パネルディスカッションを受けて、これから、地域づくり協力隊の活動による関わりも含めて今後、地域づくり、まちづくりについてどのようにしていきたいと考えているのか。	大迫では、(株)エーデルワインによりワインづくりが大成したが、近年ぶどうの生産者の高齢化が深刻となっており、課題は山積している。その中で、2名の地域づくり協力隊の方が今後のぶどう作りの担い手について考えるなど農業支援として活動いただいている。また、花巻駅前の小友ビルでは、家守舎がリノベーションによるまちづくりを進めている。他にも同様の動きが少しずつ出てきているおり、このまちづくりの支援するために1名の地域づくり協力隊の方に活動していただいている。リノベーションの概念は、行政による補助金に頼らないということ。今後は、この他にもリノベーションを活用した施設が増えていけばまちづくりが良くなっていくと思う。
6	H27.11.26	市政懇談会 (H27)	花北	総合政策部	地域づくり課	コミュニティ会議について	前市長が構想していた「小さな市役所」及び「合衆市花巻」について、市長は、今後、コミュニティ会議をどのように変革したうえで発展させようと考えているのか。また、コミュニティ会議は本来はボランティアだと思っているが、今のコミュニティ会議に大きな予算がつき事業が進められているが、適正な監査が行われているのか疑問に感じている。また、監査結果については、地域住民に知らせるべきだと思うが、ホームページや印刷物を配布するだけでは足りないと思う。	現在、「小さな市役所構想」、「合衆市花巻構想」という概念はない。コミュニティ会議については、今の役員の方々のほとんどは無償で働いていただいており、とても感謝している。コミュニティ会議の活動については、きちんと情報を開示して知っていただく必要があると思っており、市では、広報紙やホームページで周知を図っている。コミュニティ会議には、透明性をもったうえで活動についても理解いただきたいと考えている。また、今後、コミュニティ会議の方々にずっとボランティア(無償)で活動していただくことは難しいのではないかと思っている。これまで、コミュニティ会議の活動を支えていただいた方々には敬意を表している。その中で、今後、後継者がいなくなることを大変危惧しており、市でも真剣に考えていかなければならないと思っている。交付金の使途基準についても、もう少し柔軟性を持たせていくことを検討していきたい。